

ステップワゴンのデザイン

Styling Design of STEP WGN

秋 丸 立 也*
Tatsuya AKIMARU
内 田 智*
Satoshi UCHIDA

風 間 智 史*
Satoshi KAZAMA
小 林 美 絵*
Mie KOBAYASHI

要 旨

今回のフルモデルチェンジで4代目となるステップワゴン
は、「皆楽 MAX ミニバン」というコンセプトのもと、5
ナンバーユーティリティミニバンとして、ユーザの期待を
超える機能性と空間を持った、生活の豊かさの創出を提供
する商品として開発をおこなった。

その中でデザインは「FRIENDLY MAX」をキーワードに
展開した。

エクステリアデザインでは「広さ」「使いやすさ」「シンプ
ル」という観点で、ひと目で広大な空間を感じさせるスクエ
アな骨格と、楽しいドライブをイメージさせる大きなガラ
スエリアを採用し、豊かな面や張り出したフェンダ、躍動感
のあるフォルムなどで、機能的でシンプルながらもあたた
かみのある「FRIENDLY MAX EXTERIOR」を実現した。

インテリアデザインも、「広さ」「使いやすさ」「シンプル」
という観点で、ひと目で使い勝手のよさを感じさせながら、
より広さを感じさせる造形や、誰でも見やすく操作しやす
い表示と操作系などで、機能性と親しみやすさを両立した
「FRIENDLY MAX INTERIOR」を実現し、カラーデザインに
ついて、その特徴をより引き立たせたものを開発した。

ABSTRACT

The newly released fourth-generation STEP WGN is
the result of a full model change based on the concept
of a “minivan maximizing comfort for everyone.” It was
developed as a product creating lifestyle richness with
greater functionality and space than users expect in a “5
number” (small class) utility minivan.

“Friendly Max” was chosen as the keywords for the
design development.

The STEP WGN’s exterior design was
conceptualized for spaciousness, ease of use and
simplicity. Honda has achieved a “Friendly Max
Exterior” that is at once functional, yet is simple and
warm with rich surfaces, projecting fenders and a lively-
looking form taking advantage of the minivan’s square
frame. It gives the impression, at first glance, of a large
space and the generous amount of glass surface-area
evocative of the joy of driving.

The interior design uses the same concepts of
spaciousness, ease of use and simplicity to achieve a
“Friendly Max Interior” that embodies both functionality
and friendly-feeling qualities with a form that projects
both space and usability at first glance, and a display and
operating system that anyone can see and use with ease.
Color designs, moreover, were chosen to draw out these
characteristics.

1. はじめに

初代ステップワゴンは、週末を積極的に楽しむ新しい姿
のファミリーカーとして 1996 年にデビューし、FF 5 ナン
バーユーティリティミニバンの先駆けとなり、日本国内に
新しいマーケットを築いた。

先代のステップワゴンでは、空間の広さをキープしながら
フロアを下げる「低床低重心骨格」を採用することで、走

行時の安定性と日常での使い勝手を向上させた。

そして今回のフルモデルチェンジでは、低床低重心骨格
を活かすことで、5ナンバーミニバン最大の広さと日常の
使い勝手を両立させつつ、今までになく便利で親しみやす
い道具をつくる、という考え方でアプローチした(Fig. 1)。

デザインは「広さ」「使いやすさ」「シンプル」という観点
で、「FRIENDLY MAX」をキーワードに、主たるユーザであ
る家族が主役の豊かな生活創出をねらいとした(Fig. 2)。

*四輪R&Dセンター

2. パッケージレイアウト

家族の生活を豊かにする便利な道具として、低床低重心骨格を基本に、使い勝手に優れた5ナンバーミニバン最大空間を目指した。

まず、先代譲りの段差のない掃き出し低床フロアを継承して、小さな子供なら1列目席から3列目席までかがまずに歩ける室内高となるように全高を定め、5ナンバーサイズ全長限度の4690 mmで、FF 5ナンバーユーティリティミニバンではトップの8人乗り室内空間を確保した(Fig. 3)。

さらに水平基調の大きなサイドウィンドウの採用と、先代より45 mm全高を上げてルーフまわりを拡大したことにより、どの席に座っても見晴らしが良く心地良い開放感を実現した。

また、2列目席の最後端位置を先代より100 mm後方に設定すると同時に、後席ドア開口寸法を25 mm拡大することで、幼児や高齢者の乗降が容易となった(Fig. 4)。

ミニバンの機能として重要な荷室のユーティリティとしては、日常の買い物から自転車まで楽々載せられるスペースとしてだけではなく、前席に対してもう一つの新しい居住空間としての機能を期待できる四角い空間を目指し、3列目席をクラス初の床下格納とした(Fig. 5)。

著作権上の理由により非表示

Fig. 1 Approach to development

Friendly Max Design



Fig. 2 Design concept

3. エクステリアデザイン

「FRIENDLY MAX EXTERIOR」を具現化するために、「広さ」「使いやすさ」「シンプル」という観点で、いままでの5ナンバーユーティリティミニバンには無い新しい骨格を創り上げることを目指した。

外観をひと目見て、大きくてたくさん積みそうに感じられる四角い「箱セクション」と、明るくてドライブが楽しそうで、運転もしやすそうな、大きく水平基調のガラスで覆われた「全周グラッシーキャビン」を、長く愛される「シンプル」なスタイルで包むことを基本モチーフとした(Fig. 6)。

この骨格をベースにして、爽快で気持ちのよい走りを感じさせる「動きのあるフォルム」を、なだらかに翼断面を描くルーフライン、切り上げたリヤバンパ、テールゲートの見切りに駆け上がるキャラクターラインで表現した。また、走

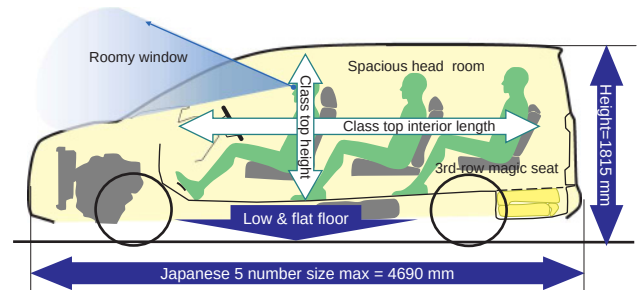


Fig. 3 Vehicle package highlights

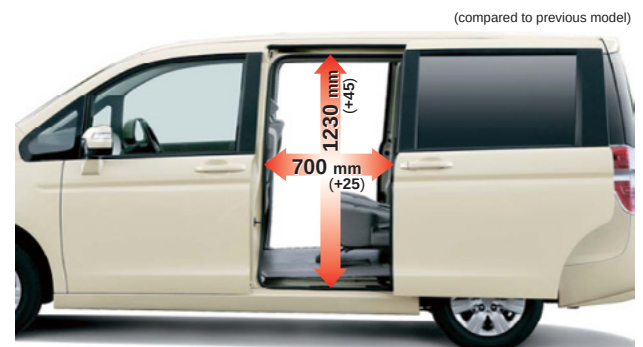


Fig. 4 Easy rear sliding door access



Fig. 5 For my family room

りの安定感や安心感を感じさせる「ワイドトレッド表現」を、大きな凹面を使うことで、実寸法以上に張り出して見える前後フェンダの処理により実現した(Fig. 7)。

そのような特徴を「張りのある高質な面やコーナ部分の処理の吟味」などの作り込みによって、機能的でシンプルながらもファミリーカーとしてより人に優しく温かい印象を与える新しい機能感表現を目指した。

フロントデザインについては、しっかりとした強いかたまりを感じさせるエンジンフードを基本に、クロムメッキグリルとヘッドライトを横一文字に通したグラフィックを採用することで、ワイドで精悍な印象とし、ヘッドライトについては大きな丸型4灯マルチリフレクタータイプとすることで、高機能かつ明るい表情をねらった。

リヤデザインについては、大きく3次元的にラウンドしたリヤウインドウ、張りのあるリヤパネル、高い位置に見えるリヤバンパの処理等で、強さや豊かさを表現している。リヤコンビランプについては、大きなテールゲート開口を確保しながら、サイドに大きく回りこませるデザインとクロムメッキハウジングとインナーレンズカットにより高級感を表現している。

Friendly Max Exterior

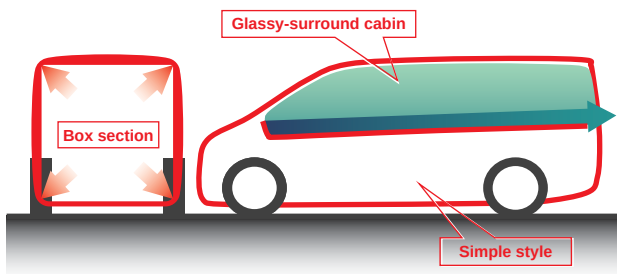


Fig. 6 Exterior design highlights (1)

Dynamic and rich functional square box ⇒
Aiming to express sense of function for new generation

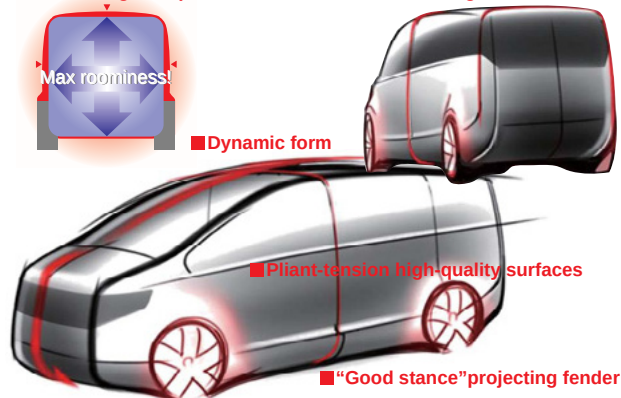


Fig. 7 Exterior design highlights (2)

(最終レンダリングを Fig. 8 と Fig. 9 に示す)

広くて使いやすい、機能的な骨格が見えながらも人に優しいシンプルな5ナンバーユーティリティミニバンの新しいデザイン、「FRIENDLY MAX EXTERIOR」を創り出した。

(最終デザイン形状を Fig. 10 と Fig. 11 に示す)



Fig. 8 Final rendering



Fig. 9 Final rendering



Fig. 10 Final exterior



Fig. 11 Final exterior

4. インテリアデザイン

「FRIENDLY MAX INTERIOR」を具現化するために、5ナンバーユーティリティミニバンに期待される機能性を追求しながら、「広さ」「使いやすさ」「シンプル」という観点で、デザインを進めた(Fig. 12)。

インストルメントパネルでは、収納などのユーティリティと、表示および操作系のインターフェイスの両立をねらった。アッパー部のかたまりを前後でずらし、そこから生み出されるスペースをトレイ機能として使えるようにし、ずらして運転席に近づけた部分をオーディオやナビの操作に活かした骨格とした(Fig. 13)。

メータやエアコンなどの表示は、遠方に置くことにより、瞬間認知のしやすさと前方空間の広さに貢献し、燃費が良いときはメータ中央のリングの色が緑色へと変化していくので、直感的に燃費の状況を知ることができる。

また、スイッチ配置を表示の配置と一致させた手元のエアコン操作は、直感操作を可能とすることをねらいとした(Fig. 14)。

シートは、空間として広く感じさせながら、ゆったり座れそうに見える、横方向への広がり意識した造形とした。

Friendly Max Interior



“Function-based design” that people expect of utility minivan

Expressing new sense of function

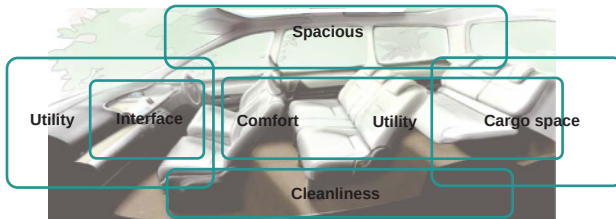


Fig. 12 Approach to interior design



Fig. 13 Instrument panel

特に3列目の床下格納シートは、収納時にフロアにぴったりと収まるよう、荷室機能との両立を具現化したデザインとした(Fig. 15)。

また、ドアライニングは、収納と前後方向の広さ感を両立させるため、すっきりとした水平基調とした。

さらに今までにない広さ感を表現するために、大開口スカイルーフと、明るい白木調のフローリングフロアで、さらなる明るさと楽しさを実現した(Fig. 16)。

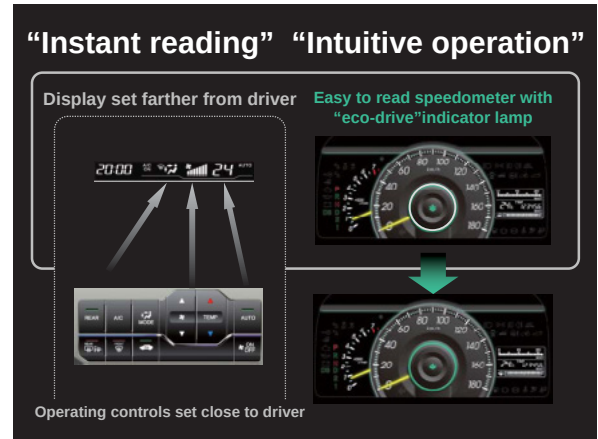
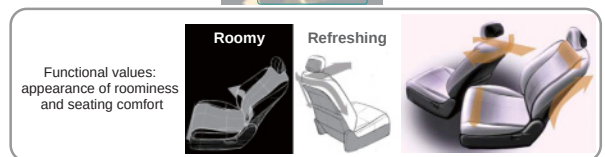


Fig. 14 Driver's interface

First and second row seats



Third row seats



Fig. 15 Seats

Cabin floor

Pursuing greater spaciousness and comfort



Fig. 16 Roof and floor

それらを総合したインテリア空間全体として、ユーティリティミニバンに期待される、広くて使い勝手のよい、シンプルなデザインの機能空間、「FRIENDLY MAX INTERIOR」を創り出した(Fig. 17)。

5. カラーデザイン

5.1. エクステリア

張りのある高質な面をもつ、ハコ型を基調とした人に優しいフォルムから生まれる、機能的でありながらぬくもりを感じるスタイリング、その特徴と色との相乗効果で、より使いやすく、親しみやすい道具としての色を開発のテーマとした。

テーマカラーとしては、家族の生活に自然になじんでいくような、やさしいカラーのプレミアム・ヒダマリ・アイボリー・パールとアオゾラ・ブルー・メタリックを設定した。

プレミアム・ヒダマリ・アイボリー・パールは、陽だまりのあたたかさや明るさを出すべく、従来のパール以上に張りのある面変化に追随した、色変化を生み出す3コートパールにて表現した。

ぬくもり感のある車の特徴を強調し、車を大きくみせる色となった。

アオゾラ・ブルー・メタリックでは、ぬけるような透明感をもつ青い空の色を出すべく、深みのある質感でシンプルに面の張りを強調する色とした(Fig. 18)。

他にボデーカラーとしては、定番のライトシルバーよりも輝度と金属質感を高めたスーパー・プラチナ・シルバー、上質な中にも華やぎを感じるディープ・ボルドー・パール、クリスタル・ブラック・パール、ホワイト・パール、ガンメタリックカラーのポリッシュドメタルメタリックをラインナップした(Fig. 19)。

5.2. インテリア

広々として、さまざまな用途に使える空間を演出すべく、



Fig. 17 Final interior

自然の要素を取り入れた、明るく心地よい空間をつくることを目指した。

室内全体のカラーコーディネートとしては、頭上空間と使用空間のカラーリングにコントラストをつけ、広さをより実感しやすくしたシート表皮やルーフ色など、全体にわたり光や風など自然の要素をイメージした(Fig. 20)。

内装色は、グレーとブラックの2色を設定した。ピラーやルーフまわりは、より広さを感じさせる明るいマックス



Fig. 18 Inspirations for exterior colors



Fig. 19 Exterior color options

著作権上の理由により非表示

Fig. 20 Interior inspirations

アイボリー、フロアはダークグレーとブラックという構成とした。

全体の表面を覆うシボについては、木漏れ日をイメージした重なり合ったシボを用い、カラーコーディネートとシボの相乗効果により、ユーザに自然に受け入れられる使いやすい空間を演出した(Fig. 21)。

ルーフ色は、頭上空間に最大限の明るさを目指したマックスアイボリーを採用することにより、外からの光をより一層明るく見せ、室内空間を実寸法以上に広く演出している。

シートファブリック色については、ライトグレーとブラックの2色とした。ライトグレーシートはシートの座面と背面とでグレーの2トーンになっており、空間にメリハリを出すとともに、使いやすさも両立させた。

柄は、インテリアデザインの特徴である横基調造形と広さを両立するため、横基調で風の流れをイメージした模様とした。さらに、地模様には深みのある処理を入れることで奥行き感と汚れにくさも両立させた。

ファブリック素材については、手触り感のよいスエード調トリコットを採用した。

せたインテリアデザイン、親しみやすさと心地よさを取り入れて特徴をより際立たせたカラーデザインなど、新しい機能感表現を目指したデザインとした。

家族が主役であり、家族と一緒に夢を広げていけるようなクルマとして、新しいステップワゴンの存在が、より多くのお客様に受け入れられることを期待している。

著作権上の理由により非表示

Fig. 21 Coordinated interior color scheme

6. まとめ

ステップワゴンは、日本国内に FF 5 ナンバーユーティリティミニバンという新しいジャンルを開拓し、以来、家族の幸せ、楽しさを提案し続けてきた。

その 13 年目の進化として、かつてない広さと使い勝手、経済性で、家族の期待を超えたミニバン価値を創造し、高い機能性が見えながらも人に優しい新しいデザインで商品魅力をより高めた、4 代目のモデルを創り上げた。

5 ナンバー枠を守りながら、クラスを超えた開放感と 3 列目席の床下格納などの使い勝手を実現したパッケージレイアウト、箱型でありながら爽快で気持ちのよい走りを感じさせるエクステリアデザイン、広さ感と機能性を両立さ

■ 著 者 ■



秋丸 立也



風間 智史



内田 智



小林 美絵